

# 春よ来い



撮影地・大崎市古川

落合 英俊 (写真部部长)



公益社団法人  
宮城県芸術協会  
(郵便番号 980-0802)  
仙台市青葉区二日町16-1  
二日町東急ビル5-B  
電 話 (022) 261-7055  
F A X (022) 214-5184  
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp  
発行者 雫石 隆子

昭和 40 年 1 月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和 39 年 5 月 9 日に宮城県花山村（現栗原市花山）の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

謹んで新春のお喜びを申し上げます。今年には十二支最後の亥年ですが、平成最後のお正月でもあり、感慨深く迎えました。恒例の一般参賀をお受けになる両陛下のお姿に心を打たれました。激務を果たしきったまなごしの柔

大方終了。展示部門の開催日が台風の上陸と重なり、水を差された格好になりましたが、前回に続いて統一テーマ「結い」を掲げての特別企画は、芸術協会ならではのコラボレーションを実現し、雨にもかかわらず、大勢のご来場をいただきました。

## 生きる糧を与える 芸術協会へ

宮城県芸術協会理事長  
雫石 隆子



時代の節目に臨んで先の見えない不安もありますが、心豊かに生きる上で芸術文化は極めて有用です。東日本大震災で打ちのめされた被災地、そして、私たちに安らぎと楽しさ、感動と癒しを与えてくれました。

上はごゆつくり、お健やかな日々を、とお祈りするばかりです。

さて、5月には元号も改まり、

歴史的にも転換期となりますが、私たちも新しい時代に向かって芸術文化の充実に取り組んでまいりたいと思います。第55回芸術祭は音楽コンクールを残して

芸術に触れることで生きる元氣、生きる喜びを得たのです。人と人を結び付け、人が人らしく生きる糧を地域の皆さんに提供できる芸術協会へ、決意も新たに共にまい進してまいりましょう。

重ねた精進、85人に栄誉の光  
宮城県芸術祭表彰式／郡仙台市長らもお祝いに

第55回宮城県芸術祭の表彰式が11月21日、仙台市青葉区のホテルメトロポリタン仙台で行われ、優秀な成績を収めた66人と功績者表彰13人の計79人が受賞の栄に浴した。式には郡和子仙台市長、斎藤範夫仙台市議会議長が顔をそろえ、芸術祭の高まる評価を印象付けた。

芸術祭が大方終了したのを受けて催された晴れの授与式は表彰式と祝宴の二部構成。宮城県芸術協会をはじめ、宮城県、仙台市、河北新報社、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城県文化振興財団の主催7団体の代表、来賓、受賞者ら262人が出席し、お祝いをした。



たゆまぬ努力が報われた晴れの表彰式



祝宴であいさつする郡仙台市長(右)と乾杯の発声をする斎藤仙台市議会議長



祝宴に先立ち、尺八の親子共演を披露する佐藤皖山執行理事(左)と会員の將山さん

芸術祭名譽会長の郡仙台市長は祝宴の挨拶で「オリンピック・宮城県芸術祭賞をはじめ、受賞者は各賞ごとに登壇。それぞれ、賞状と楯、トロフィーなどの副賞を受け取った。地域文化功労者表彰2人、文化の日表彰(教育文化功労)の4人も紹介、当協会から記念品が贈られた。

宮城県芸術祭賞をはじめ、受賞者は各賞ごとに登壇。それぞれ、賞状と楯、トロフィーなどの副賞を受け取った。地域文化功労者表彰2人、文化の日表彰(教育文化功労)の4人も紹介、当協会から記念品が贈られた。

第55回宮城県芸術祭来場者数(人)

事業名	来場者数
開会式	83
工芸展	2,101
写真展・写真公募展	2,390
絵画展(公募の部)	1,743
彫刻展	1,743
絵画展(会員展)	8,065
華道展	2,395
書道展	3,972
文学散歩	39
受賞者によるガラコンサート	498
茶会	3,846
長唄演奏会	128
文芸祭	146
音楽会	507
表彰式	262

参加行事

事業名	来場者数
第49回洋舞公演	948
第62回仙台三曲協会定期演奏会	319
歳末たすけ合い第56回各流舞踊大会	1,100

パラリンピックはスポーツとともに文化芸術の祭典でもある。宮城の芸術文化をお見せする機会。訪日客を大いに楽しませてもらいたい」と2020年の五輪を念頭に芸術支援への積極姿勢を示唆。斎藤議長も乾杯の発声で「芸術文化は街の品格、魅力、活力を増す要素」と、支援を後押しする構えを見せた。

祝宴に先立ち、当協会の佐藤皖山執行理事と会員で子息の將山さんが尺八演奏を披露。お祝い

昨年度の洋楽部会員に続く当協会会員のレベルの高さを象徴する名演奏。表彰式の「定番」になりつつあるようだ。

公益社団法人宮城県芸術協会  
功績者表彰&文化の日表彰名簿

表彰された方々(敬称略)  
◇功績者表彰

- 【華道部】安部香月・加川宗雪・加藤香紀(池坊)、平間聖峰(小原流)、高橋理雪(古流松藤会)、加川虹汀(草月流)【洋楽部】大崎健二(茶道部)小條宗喜(裏千家)、宮脇宗君(江戸千家)、庄子翠涛(煎茶道三彩流)、佐藤扶美斎(石州清水流)、渡辺南将(織田流煎茶道)、長末仙雅(大日本茶道学会)

◇文化の日表彰 教育文化功労  
【絵画部】大泉佐代子(日本画)  
【書道部】加納鳴鳳【華道部】有賀華醇(道風流)【文芸部】渡辺誠一郎(俳句)

秀作の感動を再び  
芸術祭絵画展の受賞者作品展

第55回宮城県芸術祭絵画展の受賞者作品展が12月14、20日、仙台市青葉区の東京エレクトロホール宮城5階の展示室で開催された。9月21日、10月3日開催の芸術祭絵画展(会員の部、公募の部)における受賞者が受賞作品と新作の2点ずつを出品。会員の部20人、公募の部9人による秀作58点が会場を飾った。

絵画展で高い評価を受けた作品ばかり。会場は上質な芸術の香りが漂った。あの感動を再び味わえるほか、新作も鑑賞できるとあって、例年、関心を集める作品展。芸術祭以降、創作時間が限られることもあり、受賞作と同傾向の新作が目立ったが、雰囲気が大きく異なる挑戦的な作品もあった。師走の慌ただしさを増す中、過去最多の1008人が来場。けん騒と隔絶した「芸術との対話」を楽しんだ。

# 後半も盛況 第55回 宮城県芸術祭

昨年9月に開幕した第55回宮城県芸術祭は10月下旬以降もイベントが目白押し。長唄演奏会、文芸祭、音楽会と続き、12月には今回初めて参加行事に組み込まれた各流舞踊大会も開かれた。秋から冬へ、変わりゆく季節をよそに、会場に足を運んだ市民らは変わらぬ芸術の奥深さを堪能した。



【長唄演奏会（10月21日）・日立システムズホール仙台】出演会員20人。会場変更の影響からか、入場者は幾分減少したが、伝統芸術が市民らを魅了した。

【音楽会（11月9日）・日立システムズホール仙台】「アニバーサリーを迎える作曲家」をテーマに、会員30人らが珠玉の音色を奏で、圧倒的音量を響かせた。



【文芸祭（10月27日）・東京エレクトロニクスホール宮城】昨年を上回る出席者で大きな盛り上がりを見せた文芸祭。「言葉の芸術」が深まる秋の風情に彩りを添えた。



【各流舞踊大会（12月2日）・電力ホール】二部構成で会員も社中を率いて多数出演。会場は1,000人の入場者であふれ、華やかな舞いの世界に酔いしれた。

## 特別企画「結いⅡ」に高評価

### 部長会議で各部報告 常任理事会等で「継続」決定へ

平成30年度第2回部長会議が12月7日、芸協会議室で開かれた。執行理事、各部の部長ら26人が出席し、宮城県芸術祭のさらなる充実と、当協会の財政力や組織力の強化に向けた会員拡大策について、意見を交換した。特別企画をめぐっては、評価する意見が相次ぎ、継続への強い期待感が示された。

議論の中心は、あらかた終了した第55回宮城県芸術祭の総括と次年度の方角を探ること。担当執行理事が進捗状況と実績を説明した後、各部が実施した検証作業を踏まえ、成果と課題を報告。併せて、特別企画「結いⅡ（過去・現代・未来を結ぶ）」の感想や次年度の統一テーマについて意見を述べた。

芸術祭をめぐっては、評価と課題が整理された形で示され、次年度の取り組みに生かされる。特別企画では、「チャレンジ精神に富み、成功だった」「コラボは芸協らしさが出てよかった」「新たな発見もあり、学びの場となる企画だった」「意義を示せた」といった称賛の声があふれた。

今回示された特別企画「継続」の意思等を踏まえて、今後、常任理事会等で対応を決めることになる。芸術祭と当協会を広くアピールする「真の成功」に向けて、次年度以降、広報活動の強化や企業等への協力呼び掛けと同時に、企画の一層の吟味と入念な準備が求められる。

正会員の獲得、企業をはじめとする賛助会員の拡大に関しては、各部が工夫を凝らし、勧誘に努めていくことを確認した。

統一テーマについては、第3回部長会議で「結いⅡ次代へ」とすることを申し合わせた。

## 「継続」求める意見多数

### 特別企画でアンケート 内容・運用に課題指摘

当協会は、第55回宮城県芸術祭・特別企画についてのアンケートを実施した。「継続」を求める回答者が7割、「内容次第」を含めれば9割が継続を容認。評価する意見が大半を占めた。

鑑賞した市民らを対象に、当日、会場で実施。55人（うち芸協会員14人）から回答を得た。

それによると、特別企画の今後について、「継続」が38人、「内容次第」が12人、「必要なし」が2人

で、積極派を含め容認がほとんどだった。

今回の特別企画の評価に関しては、「おおむね適当」が25人、「盛り込みすぎ」が9人、「時間が長すぎ」が16人など。内容・運用面の課題を残しつつ、各部のコラボレーションが芸術の新たな魅力を創出し、芸協の存在感をアピールする上で、一定の評価を得られた形だ。

参加の感想については、「面白さ満喫」が38人で高評価。認知の方法・手段は、「ポスター・チラシ」が11人、「紹介記事・番組」が7人、「関係者の情報提供」が30人などだった。



河北新報社による公募展の一部連携提案を異論なく了承した理事会

# 芸協公募展、広がる可能性 河北の連携提案、理事会で了承 写真・工芸、2020年目標

平成30年度第4回理事会が12月14日、芸協会議室で開かれた。会議には理事、監事合わせて14人が出席。河北新報社から提案のあった河北と芸術祭公募展の一部連携について、受け入れの方向を了承した。河北の全面的な支援で、芸術祭公募展の可能性が大きく

広がることになる。事業連携の提案内容は①宮城県芸術祭写真公募展への河北写真展の統合②河北工芸展を引き継ぐ当協会工芸部と河北新報社

## 河北新報社の提案・支援案のポイント

- ・芸術祭写真公募展への河北写真展の統合
- ・芸術祭工芸部会と河北工芸展の連携による新規公募展の創設
- ・開催は芸術祭の展示期間、連携開始は2020年を想定
- ・審査員は写真部及び工芸部の会員
- ・朝刊に芸術祭の周知を図る特集2カ面を新設
- ・同社の芸術祭共催負担金を100万円に倍増
- ・絵画・彫刻・写真・工芸の4公募展で作品集の社告を掲載

の連携による新規公募展の立ち上げの2点。実施は2020年秋を想定、出品数の伸び悩みなど課題を直視し、両団体の知見を結集する形でより魅力のある公募展を目指す、というものだ。出品数の増加、出品料の増収が見込まれ、写真公募展は存在意義、格付けの高まり、工芸公募展については裾野の拡大、若手育成が期待される。河北の芸術祭共催負担金の倍増(50万円から100万円へ)、工芸展・工芸公募展の会場として想定するTFUギャラリミニモリの使用料等の半額負担を提案、芸術祭を県民に広く紹介する特集2カ面の新設も確約している。工芸部は公募展を開催したことはなく、審査を含めて運営に不安な面はある。ただ、工芸部の役員らは河北工芸展の開催に

長らく関与している上、河北がノウハウを提供し、不慣れな部分を補うとしており、拭い難い懸念要因とはなるまい。理事会では確認的な質問が出されたが、「渡りに船」との受け止め方が大勢で、大きな期待感とともに承認された。もとより、課題がないわけではない。想定通りに出品数を増やせるのか、経費が増えただけで終わることはないのか、実際に応募作品の質が高まり、公募展の格付けも上昇するのかなど。連携の効果を発揮し、よりよい公募展に成長、発展させなければ意味はない。一本化により、責任はより重くなる。「河北ブランド」の維持・活用を含め、丁寧な計画作りが必要となる。写真部、工芸部の全面的な協力が欠かせない。また、河北新

報社との正式な合意(協定締結もしくは覚書交換を想定)に向けて、手順を踏みながら慎重に進めるべきだろう。こうしたことから、理事会では1月の部長会議に経緯を報告した上で、執行理事や当該部門の責任者に河北新報社の担当者も加えた「公募展実行委員会(仮称)」のような事業連携プロジェクトを立ち上げる方向を

### 雲石執行部の結束強化 神ヶ根温泉で移動常任理事会

雲石隆子氏が当協会の理事長に就任して約半年。課題の整理と対応策の検討、さらには解決に向けた結束強化を狙いに11月14、15の両日、仙台市太白区秋保町の秘湯、神ヶ根温泉で移動常任理事会を開いた。新体制発足後初めての一泊二日の「合宿」。大場尚文前理事長時代にも開いており、いわば協会恒例の意見交換会だ。雲石理事長はじめ、総括、事業、財務担当の執行理事全員が出席した。次第に沿って議事を進行。議題は①韓国大邱市との国際交流に代わる相手先としての可能性を探った台湾研修旅行の報告と今後の検討方向②河北新報社から

クトチームを立ち上げる方向を確認した。芸術祭の公募展が大きく飛躍する絶好の機会には違いないが、チャンスはピンチでもある。知恵を総動員して、最大の成果を引き出そう。併せて、絵画、彫刻、文芸の既存の公募展の一層の充実に向けて、幅広く点検するきっかけにもしたい。



# 認知まずまず、詳しくは知らず 浸透へ、課題を浮き彫り

## 芸協に関する企業アンケート

**72社が回答** (率は30.5%)

芸協に対する認知度はそこそこだが、そのレベルは低水準。宮城県芸術協会が実施した企業

アンケートで、このような結果

が示された。当協会の今後のさらなる発展に向けて、県民・市民はもとより、「企業市民」の理解と協力は不可欠。調査は不十分ながらも、今回得られたデータには一定の価値があり、結果を真摯に受け止めて、当協会の基盤強化に生かしたい。

アンケートは、当協会の認知度アップと賛助会員への入会等の支援を呼び掛ける手掛かりを得るのが目的。昨年9～11月に、宮城県内の主な企業236社(支社・支店等の県外本社の出先を含む)を対象に、質問・回答用紙を郵送、回答を返送してもらう形式で実施した。企業110社で、東北経済連合会や

仙台商工会議所の会員企業を中心に、知名度の高さも考慮し、選定した。調査対象の内訳は当協会の非賛助会員企業194社(82.2%)、賛助会員企業42社(17.8%)。回答を寄せたのは72社(30.5%)で、非賛助59社(30.4%)、賛助13社(31.0%)だった。県内・県外本社別にみると、県内39社(30.9%)、県外33社(30.0%)で、回答率は賛助・非賛助、県内本社・県外本社による差はほ

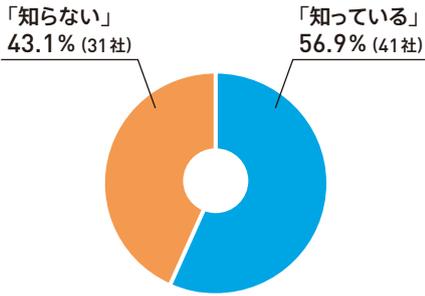
んどなかった。芸協との距離感に違いはないようで、今後、協力を呼び掛ける上で、先入観を持つべきでないということの意味していよう。設問は多めの30問。芸協や芸術祭の認知を問うものから、芸術文化の受け止め方、その振興との向き合い方、芸協との連携の在り方、支援の可能性までの幅広く盛り込んだ。欲張った設問の割には回答率が30%を上回らず、この種の調査としてはまずまず。一定の信頼性を確保できるデータが得られたと受け止めていいだろう。

### 半数以上が「知っている」

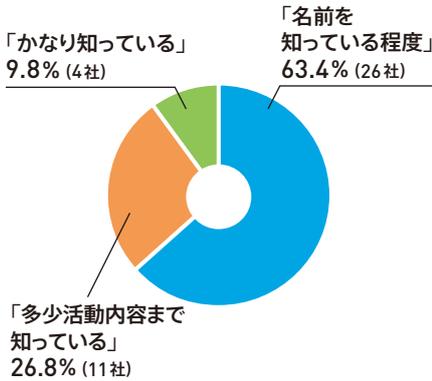
最も気になる芸協の認知の状況について、「知っている」と

の回答は41社(うち賛助11社)、「知らない」は31社(同2社)だった。回答企業の半数以上(56.9%)が「知っている」ことになり、認知度は意外に高い印象だが、芸術文化に関心があり、知っている企業の方が回答しやすいことも考えられ、偏りを読み込んで冷静に評価すべきだろう。その裏付けとして、知っている内容は「名前程度」が対象企業の三分の二近い63.4%(41社中26社、63.4%)に達している。調査に協力してもらえなかった企業の大半が「知らない」派の可能性もあり、認知レベルの現状を厳しく受け止めるべきだ。必ずしも高くない認知度の向上に向けた方策として、「組織

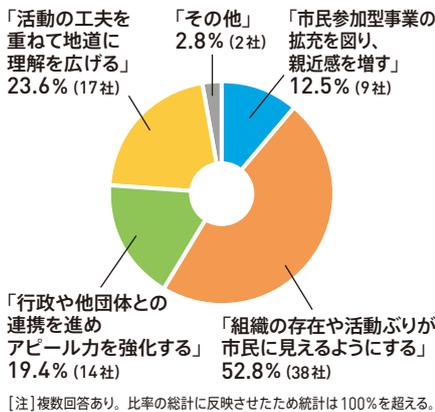
### 芸協を知っていますか



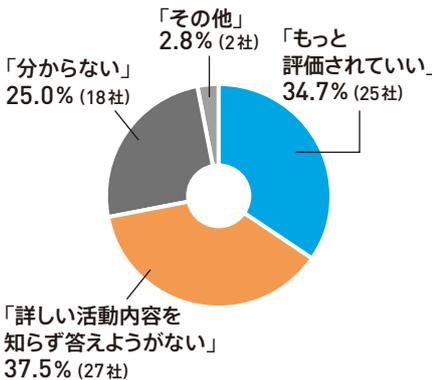
### どの程度知っていますか (41社対象)



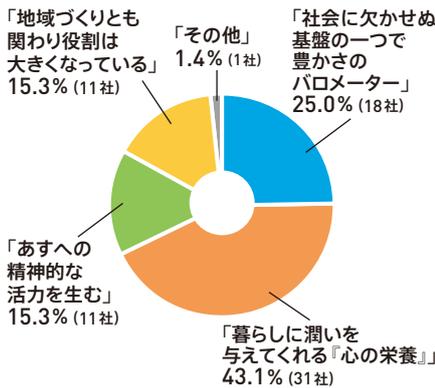
### 認知度を高めるため最も重要な取り組みは



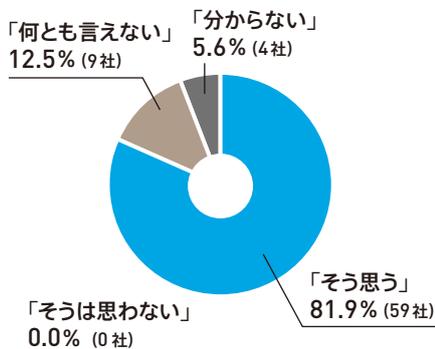
### 芸協の存在をどう受け止めるか



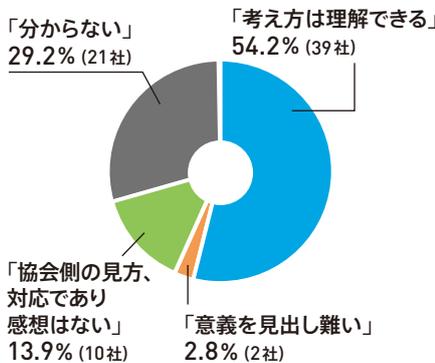
### 芸術文化の役割について 最も近い考えは



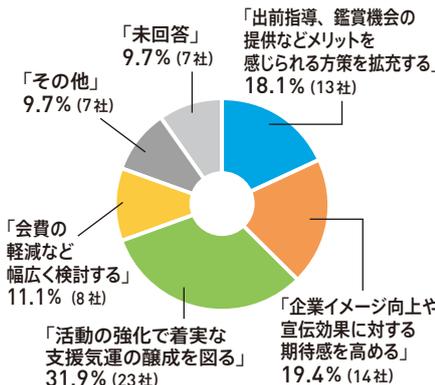
### 「文化力」は「地域力」との 見方をどう思うか



### 企業等との連携を強める 芸協の考え方をどう思うか



### 企業との連携や支援の強化に つながる方策は



[注]各グラフの比率は四捨五入により、総計100%に一致しないものがある。

の存在や活動ぶりが市民らに見えるようにする」との回答が38社（うち賛助5社）で半数を上回った。「取り組みの創意工夫や行政・他団体との連携によるアピール力の強化が必要」との回答も目立った。

芸協の存在価値については「もっと評価されていい」が25社。まずまずの比率にも映るが、芸協を知っている企業が全て評価しているわけではなく、「詳しい活動内容を知らないため答えようがない」「分からない」が45社（うち賛助7社）に上った事実は重い。いずれ詳しい活動内容を含めた認知度の低迷を反映した形で、ここにも当協会が抱える課題が明確に浮かび上がってくる。

### 「文化は地域の力」に賛同

芸術文化の役割については「社会の欠かせぬ基盤の一つ」「心の栄養」がそれぞれ18社、31社で、「国や地域づくりとの関わりもあり、役割は大きくなっている」との踏み込んだ積極評価も11社あった。芸協の活動内容に関しても、7割近くが意義を認めており、浸透の可能性、支援呼び掛けの手掛かりが見え隠れしている。「文化力」は「地域力」との見方にも8割強が賛同しており、活動への理解を広げる下地は十分だと言っている。

芸術文化の普及・振興に向けて、当協会が進める市民・企業との連携強化については「理解

### 賛助会員へ、投資効果期待

できる」との回答が半数を超える39社（うち賛助9社）。その理由として「有力な手段であり時代の潮流にも沿う」が6割を超えた。心強い。

企業メセナ活動の現状も聞いた。芸術文化の振興・発展への自社の寄与について「貢献している」と回答した企業が38社（うち賛助9社）。一時のブーム的現象とは異なり、派手さは薄らいだ印象だが、企業の文化支援活動が定着している状況がうかがえる。

「み」など投資効果的な意識を持つ企業が27社（うち賛助5社）、4割弱も占めた。一見、矛盾するような回答だが、メリットにこだわる背景を探れば、芸協の存在感がそれだけ希薄ということもあるのかもしれない。もとより、各社の規模、経営環境が様々ではなく、一律には論じられないが、中長期を含めた利益の確保を無視しえない企業の現実も踏まえる必要があることだけは確かだ。

### 関係強化に向けて足掛かり

今回のアンケートは企業の理解、支援を得るための対応策検討に向けた小さくも大きな第一歩。各企業の担当者らが回答、調査は個人の認識に左右された側面も否めない。結果を冷静に受け止めるべきだが、当協会の発展に生かせる有益なデータが得られたことは間違いあるまい。何より企業との接点ともなり得る今回の調査を通じて、支援を働き掛ける足掛かりはできた。具体的取り組みにつなげて、企業との関係強化を図りたい。（設問と回答一覧は次号に掲載する予定）

### 今井氏に河北文化賞 久道氏も学術部門で

第68回(平成30年度)河北文化賞に今井邦男氏(洋楽部)の受賞が決まり、1月17日に仙台市内で行われた贈呈式で、賞牌などが贈られた。

今井氏は宮城県合唱連盟理事長。作曲家、指揮者、尚絅学院大名誉教授で、全日本合唱連盟常務理事、合唱5団体の常任指揮者を務め、多年にわたり東北合唱界の発展向上に寄与した功績が認められた。

昨年、文化庁の地域文化功勞者表彰を受けており、連続しての榮譽。今井氏は「今後も合唱文化の基礎を築く仕事を続けていきたい」と喜びを語った。

久道茂(茂堂久)氏は文芸部(散文・小説)の所属。東北大名誉教授で、専門はがん疫学。現在、宮城県対がん協会会長を務め、がん対策の発展と公衆衛生の向上に寄与した功績が評価された。

今回、河北文化賞受賞の5氏のうち2氏が当協会関係者という快挙だった。

### 私達は芸術協会を応援します 新賛助会員

- (団体)  
◇有限会社松尾弦楽器  
代表取締役会長 松尾 英紀 様  
◇三井住友海上火災保険株式会社  
仙台支店長 川端 正樹 様

### 事務局日誌

#### 会務報告

- 【第2回部長会議】12月7日  
○第55回宮城県芸術祭について  
(宮城県芸術祭実行委員会)  
○会員と賛助会員の拡大について  
【第4回理事会】12月14日  
○2019年度事業計画及び予算編成の方針について  
○賛助会員の承認について  
【第3回部長会議】1月18日  
○2019年度事業計画及び予算について  
○次年度の芸術祭について

#### 後援

- ☆第4回日本画・緑彩会展  
11月13～18日  
東北電力グリーンプラザ  
☆第26回宮城シニア美術展  
11月29日～12月2日  
宮城県美術館  
☆混声合唱団クール・リュミエール  
第52回定期演奏会  
11月30日  
日立システムズホール仙台  
☆美里町「河北展」  
12月1～9日  
美里町近代文学館  
☆歳末たすけ合い「第56回各流舞踊大会」

- 12月2日  
電力ホール  
☆第1回仙南邦楽邦舞の祭典  
12月9日  
仙南芸術文化センターえずこホール

- ☆第36回メサイア演奏会(全曲演奏)  
12月16日  
仙台国際センター

- ☆第42回一般社団法人二科会写真部東北地区公募展  
12月19～23日  
岩手県民会館

- ☆東北書道新春選抜展  
1月11～16日  
せんだいメディアアテーク

- ☆第8回宮城一先会書展  
1月26～28日  
せんだいメディアアテーク

- ☆一般社団法人宮城県華道連盟  
第78回春のいけばな展  
2月2～5日  
せんだいメディアアテーク

- ☆第77回春のいけばな展  
3月17～20日  
せんだいメディアアテーク

- ☆第14回 Dance Competition in Sendai 2019  
2月23、24日  
日立システムズホール仙台

- ☆第13回定期演奏会(みやぎコーラルハーモニー)  
2月24日  
日立システムズホール仙台

- ☆ふるさとの春まつり2019  
東京 3月11、12日  
日本橋公会堂

- せんだいメディアアテーク  
3月15～20日  
せんだいメディアアテーク

- ☆2019仙萩会書展  
3月15～20日  
せんだいメディアアテーク

- ☆第14回 ALL NIPPON DATE クラシックバレエコンペティション MIYAGI  
3月26～28日  
日立システムズホール仙台

- ☆第82回河北美術展  
4月25日～5月7日  
藤崎本館  
TFUギャラリーミニモリ

#### 会員の入賞・入選など

- ◇改組新第5回日展  
【第1科日本画】▽入選 奥山和子(第2科洋画)▽入選 佐藤幸子、関根光次、志賀一男、我妻宏也(第5科書)▽入選 小日向慶可、高野芳月、末永瑞鳳  
◇第27回河北工芸展  
▽河北賞 古山文子(染織)▽宮城県文化振興財団賞 桑原リエ(陶磁)▽東北福祉大学賞 大沼明子(陶磁)  
◇第34回河北写真展  
(東北の風景)▽宮城県知事賞 松本隆▽青森県知事賞 小住正吾(東北の暮らし)▽秋田県知事賞 竹内邦昭

#### 受贈書( )は寄贈者

『句集福島』(赤間学)、『村田洋子作品集』(村田洋子)、『宮城の現代詩2018』(宮城県詩人会)

#### 謹弔

文芸部(短歌)	菅原正幸 殿
書道部	菅埜暢水 殿
絵画部(日本画)	吉田温子 殿
絵画部(洋画)	阿部邦利 殿
	12月17日

### けやきの譜

梅に驚。絵に描いたような一瞬を目の当たりにしたのは、奈良若草山、山麓の旅宿だった。県内の梅の名所は大方が三月下旬からが見頃となり、政宗由来の瑞巖寺の臥龍梅の見頃は四月中旬▼春は追いかけるように桜の季節を運んでくる。桜は日本人の精神性に深く根ざしている。風さそふ花のゆくへは知らねども惜しむ心は身にとまりけり」西行。花の散りゆく風情が心を離れない▼震災から八年目の桜が、三月のあの寒い日と震災一年目に咲いた桜のけなげな姿を今年もまた思い起こさせるだろう▼経済学者宇沢弘文(故人)によれば、社会的共通資本つまり、誰にとっても大事な共通の財産(水や空気などの自然環境、道路や橋などの社会的インフラ、教育や医療などの制度資本)を利潤追求の対象としてはいけない。それは一人一人の人間の尊厳を守るために不可欠だからなのだ、という▼梅から桜、そして緑の季節へ。すばらしい自然環境に、いきいきと感応することに芸術誕生の理由があるのではないだろうか。(英)